

# 分校の窓から

01  
2023

## 1.25 - 26 臨時休業

1月下旬、10年に1度と言われる強烈な寒波が襲来し、全国各地で大雪や厳寒の記録を更新しました。和歌山県内も24日(火)夜から25日(水)朝にかけて強い寒気が流れ込み、紀南地方を含む県全域で積雪を記録。道路が通行止めになったり公共交通機関が運転を見合わせたりするなど、交通にも大きな影響がありました。

山間部に位置する美里分校では、積雪で専用通学バスが運行できなくなり、臨時休業になることがあります。最近では温暖化の影響からか、こうした事態になることはあまりありません。しかし今回は、分校周辺でも25日未明に約15センチの積雪を確認し、午前6時20分に保護者宛て一斉メール配信でこの日の臨時休業を通知しました。

この日は3年生の学年末考査最終日で学校行事も予定されていましたが、早々に臨時休業を決定したため、大きな混乱はありませんでした。その後も断続的に降り続いた雪は、午後到校庭で約20センチ超、グラウンド付近では40センチ近い降雪を記録し、この日出動できた職員はふたりだけでした。

翌26日(木)は登校時間を遅らせ、4限目からの授業開始を予定していましたが、学校周辺の道路に積もった雪や車が通った跡の轍が凍結して、バスの運行がより危険な状況になっていました。このため、時折晴れ間を見せるほど天気は回復していましたが、午前7時に臨時休業を決定し保護者に連絡を行いました。

近くを走る国道は一部除雪が行われていま

したが学校付近には及ばず、国道から分校に登る坂道にもたくさんの雪が積もっていたため、国道に自家用車を置いて出勤する職員もいました。この日の午後、職員は今後の対応について打ち合わせをした後、学校再開に向けて周辺の雪掻きを行いました。

27日(金)は授業を再開することができましたが、まだバスを学校まで登らせることができなかつたため、学校付近で生徒を降ろし、そこから徒歩で通学させる対応を取りました。こうした状況が1週間続き、通常に戻ったのは2月3日(金)のことでした。

今回の寒波で、分校が山間部にある学校であることを改めて実感しましたが、これも自然が豊かな分校の魅力のひとつです。校庭に積もった雪は2月下旬まで残っていました。





## 1.12 講演「紀美野町地域おこし協力隊と棚田再生プロジェクト」

1月12日(木)の午後、「中田の棚田再生プロジェクト」に取り組む紀美野町地域おこし協力隊の行年恭兵(ゆきとしきょうへい)さんと小川地域棚田振興協議会会長の北裕子(きたゆうこ)さんを学校に招いて講演を行いました。美里分校は今年度、このプロジェクトと連携し、有志の生徒・教員が田植えイベントや稲刈りイベントに参加しています。

### 地域おこし協力隊

広島県出身の行年さんは、名古屋大学、大学院で生物や自然環境について学んだ後、広島で教育図書出版会社で働いていましたが、もっと大学で学んだことを活かせる仕事がしたいと結婚を機に退職し、3年程前に地域おこし協力隊として紀美野町にやってきました。

地域おこし協力隊は、都市部からの若い移住者を迎え入れ、様々な地域協力活動を行う地方自治体職員のごとく、行年さんは紀美野町の地域おこし協力隊としてこのプロジェクトに参加し活動しています。

### 中田の棚田再生プロジェクト

中田の棚田は、生石山の麓に広がる600年以上の歴史を持つ棚田ですが、近年は担い手が不足し耕作放棄地が増えています。この棚田の美しい原風景を取り戻し、観光地として人が集い交流する場所にしようと始まったのが、この棚田再生プロジェクトです。

プロジェクトでは手作業による耕作放棄地の再生や無農薬・無肥料での米づくり、田植えや棚田でのキャンプなどのイベントを行っています。地域住民だけでなく町内外のボランティアや学生など延べ500人を超える人たちがこの活動に参加しています。

このプロジェクトを推進する小川地域棚田振興協議会で会長を務めているのが北さんです。北さんは高校卒業後、県外で様々な仕事や経験を重ねる中で、生活に感動や根っこが感じられないと、10年程前に故郷に戻ってきました。以来、紀美野町で農園やカフェを経営して農業の魅力を発信するとともに、野菜ソムリエとしての活動や地域活動、まちづく

り等、様々な活動に取り組んでいます。

行年さんは、プロジェクトの活動を通して自分にできることや物事を見る視点が増えたり、他人の考えを理解できるようになったりしたと言います。人との出会いや様々な経験は自分を成長させる大切な機会になるので、失敗を怖がらずに自分がやりたいことに積極的に取り組んでほしいと話してくれました。

また、北さんは様々な経験をすることで、日本は便利さを追求して成長・発展を遂げてきたけれど、何か大切なことを忘れていてはないかと感じてきました。そして、こうしたことを守りながら活動を続け、次の世代につないでいきたい話してくれました。

社会には様々な仕事や活動があり、それに携わる人たちの想いがあります。その想いの強さがその人の人生の豊かさにつながっていくのだと思います。私たちに大切な“想い”を語ってくれた行年さん、北さんのおふたりがとても輝いて見えました。

## 1.13 第2回みらい創造会議

1月13日(金)、紀美野町まちづくり推進協議会が主催する「みらい創造会議」が開催され、3年生の谷口僚(たにぐちりょう)くんが参加しました。

この会議は、紀美野町の課題や未来について話し合うことを目的に、昨年11月に協議が始まりました。公募に申し込んだ高校生から大学生、若手起業家や町の若手職員、地域おこし協力隊員など13名の若者が参加し、付度なしに町の未来を話し合います。会議は来年度も継続し、ここで出た意見を町政の方針を示す次の長期総合計画に反映させることを目指しています。

この日はふたつのグループに分かれ自由に意見を出し合いました。学生から見た町の魅力、子育てや女性の社会参加の観点から見た町の課題など幅広い視点から意見が出される一方、会議の目標や在り方に悩む参加者の声もありました。

この会議には町内にある高校4校からも学生が参加しています。比較的年齢が近い大人と意見を交わすことは、参加者の地域に対する想いや立場が異なる考え方を知る機会となり、「社会」を考えるきっかけを与えてくれます。美里分校は今後もこの取組に積極的に参加していきたいと考えています。

